

遊女の眞実

身を投げ出して、溺死から救って呉れる人。そんな人を、遊女は求めるさうな。

肉をひさいで、道徳も、社會も、法律も、親兄弟も無視し、捨て去るアバズレ女は、流轉の生活に明日も意識せず日暮しをし乍ら、心からの愛人が、眞実欲しくなる。さうな。

爛れる生活に、一流の艶氣を求める遊女の情愛は、死に直面する人の最後の告白より美しい心の叫び、**股**実の歎声であらう。

満ち傲る風流、氣儘な、贅澤を續けてゐる良心の**??**（**對應? = 対応**）した者でも、時に、眞実を叫ぶ貧困者に愛撫の**?**を流し得るだらう。

友情、眞実は、同じ境遇、教養、智識の存かに湧き上るよりも、遠く離れた身も知らぬ人の間に眞実籠めた頼りを得るやうに。心を等しくするもの、互の力、異となるものは、何處にあるか、事が起きてからでないと予め判るものではない。

世には屢々、無智文盲な人に限って、人情友愛に深いものだ。

名誉とか、地位とか、教養や世間的に拘泥しないで、一本氣で突き進むことが出来るからだ。

廣く世間を度り歩いた人程、常識があり、伶俐である。が伶俐が必ずしも人を幸福にはしない。世渡りの上手な人はよく、冷酷であったり、薄情な人が多い。

美人薄命、薄情と言ふのがそれだ。

本人は、常態と信じてゐやう。けど、人は褒められたり、もたげられたりする結果、自惚に自信の輪をかける。結局は、おセヂで世間を渡るやうになる。否さう世間人がさせるだ。とも言へる。

兎にも角にも、醜婦の心は顔より美しい。美人の心は顔より醜い。間と言へる諺である。

遊女の生活は、吐き棄てる程に、一般社會人はその惡態を責める。併し、彼女氏等もさう迄しなければ生きて行けなかった理由、イヂーィゴーイングな生活の道と信じた肉体の切賣は悲慘であるに異ひない。

貞操は洗濯すれば清浄になる。

さう言ふあくどい迷説は別としても、眞実、彼女氏達が一日、一瞬、一秒間でもいい眞心の充ちた自分自身の生活、汚れた身をも美しい。と矛盾を忘れる瞬間が欲しいのは、人情として誰しも変りがないだらう。然って、溺れる生活から僅かでもいい、手をつないでくれる男を希求するのは必然だとも言へる。

いい加減な世渡りで最後の場合に、救ひ手の無い者程、あわれにも罵倒雜言を浴びせられる馬鹿はゐない。**??**はそれを意識してゐて準備しない手合

だ。

人生の厳しさは、孤独の杵感じるのではなく大群衆の中にゐて体験するのが、眞実迫る厳しさである。

物事に当って碎ける。君の現在の叫びに手を差し伸ばして呉れる人がゐるかどうか。眞の生活、美しい享樂の人生は、そこから芽生へそれから出発するものだ私は信じてゐる。

話して相手を感じさせる。それが雄辯である。美辞麗句は入らぬ。眞実、心、が人の心に通じる時、言葉の美しさが発現される。

聴いてゐる人の心を感じさせる眞実の言行こそ、世の誰れでもが希求し把つてゐる情熱なのだ。

或る男が言った。

死んだ人を観たが、少しも悲しくなかつたけれど、その死人の娘さんが、泪を堪へて「お父さん」と呼ぶ、肉親の愛情には泣かされたと。又その男が言ふ。

繼子いちめ等には、憤りが湧くんだが、永い間、繼母にいちめられた子供が、幾十年振りかで、老いた繼母と再會する場面に接すると、心を衝たれて、胸が込み上げて来る。

私は、これを撮り入れる文藝を、只單に感傷主義の文学として、人の心を規つて創作する、アテものとして、輕蔑出来ない。

どんな主義主張、流派傾向にだって、その流の其には、人の愛と情熱に支配されて動く心に力強く響くものがなくてはならぬ。と平常信じてゐる。

その心を動かし、感情を揺り動かすものは、事實を通して、頭はれる感傷的な批判でなくてはならぬ。感傷的な批判と言ふのは、理論や理智に訴へるのではなく、直接感情に働いて??する批判である。

優れた文藝作品ほど、事實を批判する感情の波が大きい。

智性と科学的な解譯を如何に??に主張しても、人間の感情生活はさうさう、機械とは違ふのである。

客觀的に一と文藝の本道は訓へるだろう。主觀的なものは價值が尠ないと。

けど、私は、詩なり、歌が、生活なり、經驗なりの現實を批判する文学であるから、力強く直接に作者の感情が実感される。同時に、その実感を通じて、作者の態度なり社會現實の認識なりが、克明に批判し??出来るのである。

客觀的と言っても、多少は主觀の混淆しないものはない。??く批評は評家の主觀だ一とよく謂はれる。

俳句でも、歌でも、純の客觀と称する作品に優れたものが少くなく、客觀的に思はれて、その実主觀的な態度を持った作家のものが世に歡迎されはせぬかと想ふ。

その點で、私は、機械の動作みたいに、算盤的な報告文学や 科学文学を好まぬ。

算盤の中に感情はない。報告書に情熱はない。科学文学は、頭腦の結?であらう。けど私は、科学文学の底に流れる情熱は、個人の魂を頭で動かす生きな人間心の発露でなくてはならぬ。

生活記録、社會觀、資本主義に対抗する被搾取者の交換にしろ、情熱で、事実を、批判した、生きた現実が紙背に躍動してゐなくては、作品の、作品？

感傷主義：感情を理性や医師などより重んじ、詠嘆、悲嘆の調子の強い文芸上の傾向。主情主義、センチメンタリズム

作品らしい作品は、その裡のどこかに、七分の感傷、三分の理智が輝いてゐるやうだ。 ‘

社會性文学、？？しないやう文学と言ふものも、？？法的だなど馬鹿さはぎ一しないでプロの生活意慾を、もっと情熱と、感傷の鋏で探り下ろした、現実を描寫して慾しいものだ。

文学は、哲学でも、論理学でもない。

？？感情のそそぐ波動である。

舊い感情の恋道徳

恋して悩み、人生を悲しむことは、恋なくて悲しみ、人生を恋した者に勝る。と言ふが、恋が金権に支配される時、恋は無いのが**(奥)**しである。

ある青年が乙女を恋した。

青年は勞働者で、乙女は大学生である。

青年は、恋の勝利者になるには金が生活を支配することを、家庭生活は經濟生活に基礎を置くことを、そして乙女の**(両)**親が乙女を慈愛する富み、幸福な家庭であることを識り過ぎる程理解してゐる為に、青年は友人知友に恋愛の経過を**??**され乍ら、乙女に結婚を申し込まない。意気地がない。言へば言つてが、時代は、未だ因**?**道徳に**(苛責)**された女の両親達は、社會人を吃驚させ、勇敢に新生活に突入するだけの犠牲を貫く。人に拂はせたくない。女を青春の情熱の為に、どん底生活に巻き入れるのが、眞の幸福ではない。と青年は諦觀を漏らす。

觀方に依つては、相方が愛してゐれば友愛結婚も出来ると主張し得やう。

それが又、新時代の恋愛でもある。

併し、幾百年、幾十年、時代社會は遭り移つても、金が無い為に、余りにも悲惨な相愛者の不幸が眼前に浮ぶ一と青年は言ふ。

女がそれを承知してゐたら。と言ふだろうが、女を生活苦に墮すことが愛の最上の目的 恋の最後の手段であらうか。青年は述懐する。

世の中は益々不景氣になり、失業者は増へ、いつ、青年も失業に彷徨せねばならぬか判らぬ。

女は大学に通ふ有福な家庭の娘

青年の悩み、共に生活するのが恋の極到だと言ふ時代、現社會の制度が、青年の革命的な心境に**???**を湧かし。

時代人と緒に歩く女を、革命の尖端通し**?**き**?**り得ない青年の歎きである。恋は自由。實際、恋は自由であらうか。現代の社會に、社會人として、尠くなくとも一家を支へて行かう。道に離れぬ生活をしようと言ふ者に。

犠牲。犠牲なくして何の飛躍があらう。

女と緒に生活のドン底から歩き出す。それが愛情ある最後の階段として撰ぶべきだ一とすると、境遇の差は、履の如く棄つべきではある。

併し、実行は教訓であり難行である。

理論の公式が当て嵌る場合が唯物的に解決出来兼ねる時、恋の悩みが起る。

恋がいつでも、誰にでも、金錢を離れて成立するなら、**?**それこそ、天國である。それ程な様に今の世は、經濟生活が人間の一举一動を支配するのである。

恋は金で買へぬ。が金は恋の勝利者となる偉大なる武器である。

武器なく戦ふ者は狂人であると言へぬこともない。つまり現代人の偉大なる武器とは金を持つことが一つである。と僕は身をつまされる。
勞働生活の惨苦と資本主義の社會制度の?? 道德、教育の?入りに反抗する者である。

満州を日本に委せる

満州の軍事的占據は、北千千八より、南欽[？]の政略に於て、一段落を告げたやうである。残るは、内に経済的發展への計畫、統整であり、外に向つては、外交による、我が満蒙利權保護に因する優先權の確認であらう。

同時に、その才一步として日本は、我が建國祭日と同じくする朝に、満州四省は新國家の建設宣言を發表するべく着々と國家機關の設置、制製に、支那要人の活躍すさまじき風があるらしい。文も既に、我が日本軍部の筋書き通りの計畫と言へないこともない。

現在のあの支那の混乱せる現状、軍閥の挑[？]では、今更日^{？？}すべしでもなからう。

考へてみても解るであらう。日露、日清の二役に、國家を賭して、日血の[？]を飲んだ満州だ。日本の生命線であればこそ、日本の今[？]の態度行動である。

K [？]、考へてゐる一事は、これを契機として我が軍部の態度にならつて、外務省が腰を据へて、張りのある外交を断[？]と固とし実行すべきことだ。

一も押し、二も押し、三も押し、米國軍事狀態、英國軍事狀態等が、どうしても戦場を日本に向つて開くべくもない現状を透視して、過去の失敗に失敗した外交を改へることを、我々は要求するものである。特に、我が在米度同胞を見殺しにするが如き、移民法通過の如き、道德的にも、人道的にも、更に國家的に、我が主權を認められざるか如き、^{？？}風許下[？]と[？]卷との價值に対しても、一[？]して可なりである。

ペンペンとして、屋根裏^裏のススキに似た物の哀れを感じずるが如き外交はやめてもらひたいものである。その点、我には、軍部と外交部の、余りにも均整のない腰加減にあきれるのだ。

満州を日本に委せるか—そのスローガンをして、諸外國の^{？？？？}、外交、政治家等に良解せしむべき、日本の立場と、支那現在の無秩序狀態を解説すべきである。

それには、單に外交宣言に待つのみでなく、^{？？}の言葉としての新[？]權法は勿論、私設外交の積極的活動こそ望むところである。

恋愛は暴力だ。と或る男が言ふ。

スピード時代の恋愛は、蠟燭のやうに、ヂリヂリと燃え乍ら身を焦がしてゐてはだめ。電燈のやうにパット？じて、パット消えるは新時代的だと言ふ。

だが、現代のモダンボーイ、ガールは、金で恋する。つまり、結婚が恋の勝負を決定するんだ。そして、金は接吻を買ふことが出来、肉体を買ふことが出来る。

女も男も、新時代の社會生活には、金に愛を許し、愛に肉を許す。そして、愛情は一個人の所有として、？？させない。

恋人と夫、それは、近代女性、尠なくともアメリカのオ二世の中には、二人の男を意識する者が多い。オ二世の乙女が平然とそれを口にするを聴いて、私は先日あきれて了った。

金一經際餘裕の無い者は、恋と結婚の資格がない。同時、さうした不運なプロの為に、街娼的な、女人風景が近代色だ。時間的に割り切れる 恋愛ができる。

家庭、愛の巢、さう言ふ言葉が、？言生活と離れて来るだらう。

五人の男が一人の女に愛情を感じれば、その五人の男は、その一人の女に強姦が出来ない。けど ハワイの最近の強姦事件は、対女対肉慾的な、余りにも、時代の尖端を跳ねる物慾と、人？の廢頹、さう言つた病的社會層の、家庭を持てぬ人間？の意志の暴露だ、

だからして

貧乏人の恋は、破れホーバに最大速力を出さして馳せるやうなものだ。

乗る人も、見る人も、そのせい一杯の暴力的な速力にあきれる外はない。

色？、それは單に自動車が他と衝突する恐ればかりではない。それ自身が他日の用に？らなくなる迄に自滅作用に能力を磨拭があるのだ。貧乏人の恋、それは悲惨な現代社會組織の？かんを証をするものだ。

貧乏人に家庭が持てぬ 恋が、結婚が出来ぬ。屢々青年が、いざと言ふ立場で、？？してゐる。總ては金が？？手段としての恋の傳導體を務める。完全な科の器だ。

青年の血氣は、金を輕蔑する。併し、金が輕蔑の悲哀を？？する。

恋愛を？？觀から獨立させる。

それが現代青年の多くの人々の願望だらう。すると、その？で、ロシヤこそ、我等、彼女氏達の？があるにちがひない。

でも、私はロシアの社会組織、道德観、さうした社会意識を必ずしも讃嘆するものではないが。

(無題)

神は全能と言ひ、善をなすをすすめる。

悪魔は、悪を支配する。

判断で、それが善であるか、悪であるかは善は神に、悪は魔性に訊ねるべきである。

個性は、性格であり、人格である。

作品、文藝に於て特にさう言へる。

知識は、尠なくとも現在の文化は、人生を複雑にし、悲戯に導く。

単純は、幸福の学?であり、喜戯でもある。

個性は人格を創らぬが、年歳は、屢々 人格と個性を磨き上げてやく。

貧乏が生むもの

人生は、カード勝負だ。

持札の悪い奴に限り一番大きなプラフを言ひ、プラフを言ふ奴に限って、最後は破れる。

貧乏は、いい事でも、讃めたことでもない。同時に、恥かしいことぢやない。

どうにもならぬ、境遇に伸[?]する人の諦めねばならぬ社會生活だ。

貧乏のよさは、貧が教へる謙譲だ。忍耐心だ。

貧乏が生む性悪のが、プラフと言ふ虚榮心だとか、傲慢だとか、貧乏を賣りものにしたり、貧が迫る罪惡の^断に立たされることである。

有るものを、有るだけみせ

無いものを、無いとして、それから一步、進み出る生活行動は美しい。

併し、貧は貧の始まりだと言ふ。礼食たりて禮節を知ると教へる。

一番あくどいのが、現代の礼食足りて禮節を辨えない奴だ。世に、これを、資本家と称する。資本家の集團が、まあ、帝國主義的國家である。

日本は、上海に、商品と劍を持って行った日本製品を買ふか、それとも胸に一刺し貫いてやらうか。弱い者は悲惨だ。現在も矢つ張氏族時代、から封建時代、商業資本主義時代同様な、最後の^{??}だから、強いものが勝つのである。

日本が上海を点[?]する。と米國や英國は黙ってはゐられぬ。

子供三人で、一つの林檎を分配するやうなものである。共同監理のものは、共同監理にしゃう一と英米が主張する。が日本は食へるものは、早く食つて了へて軍艦を送る。

人は貧乏すると慾が出る。が持って、又持ってるだけ、慾が大きくなる。

要するに、資本主義崩壊期だ。慾と慾が衝突した時、慾の皮が裂けて、お互いに血を流すのである。そして、結局は、いたい目に遭っただけの損で[?]になるのである。

貧乏で謙譲な時代はもう現代には望めない。

富んで傲慢であるな、禮節を知れ一と叫ぶには、貧乏人が多過ぎて陰呑な時代になった当今である。貧と富、どうやら、最後の人生の社會の博奕になって来た。

國と國との大きなゲームが、了いには、ゲームにあきる間が来るだらうに。

その時は、誰かに僕たちの生きてゐる世の中では決してあるまい　までかな、??の時代かな。

Feb.9. 1932

貧乏の口上

生活に窮した**捐**句、あちこちから金を借り廻った或る男が、貧乏だから借りるんだ。無いから拂へないんだ。オ一、金を貸したからって請求するなんて、人非人だ 苦堤心のない奴だ。高利貸や、金持共がはびてるから、我々貧乏人は食ふために金を借りる権利がある。

その男は又言ふ。

立派な庭宅構へた家の庭の柿の木に、熟し柿が一杯なってるのを、垣の外で、三四日も食はない乞食に、眺めただけで行きうせろ。とは言へぬ。よしさう言ふなら、盗んで穫って食べてもいいんだ。

そして、食ふ為に食物を盗んだ。乞食を責める法律は廃棄すべきであると。

最近、人間の本能心を自由にする運動、則ち魂の解放を叫ぶ反宗教運動が猛烈に湧き上がってゐる。

新しい道德律から開放する為に、因襲を破る新時代の叫喚が擧げられてゐる。

社會組織の**??**矛盾を指的して、新しい制度、組織の建設運動が興ってゐる。

然し、現在の法律を棄ててしまへーとは、余りに愚劣な世迷ひ言。我利我利の暴言と言はねばならぬ。金を借りるのは恩情で、法律は実践を強要する冷い理論である。

貧富の差は極端的に段階を生じるだろう。けど、それ故、生活に窮する理由で、富者の富を奪ふ權利を貧者に與へらるべきではない。

宗教から魂を開放する。

社會組織を革正する。

舊道德を変革する。

それ等は可能であるとしても、現代の貨幣制度を**揚棄**しない限り。

暴力による、私有の任意略奪は**斷**じて許されるべきではない。

無けりやないで通る。この貧乏に通ずる窮道は現代に呼び掛ける力がない。

貧乏から人を救ふのは合法的な国家權力の行使に依る富の分配であり、それ以外に貧乏の救助は**?**はない。尠なくとも現社會の**??等經濟**下に於ては

父と娘

先夜、知友に誘はれて、或る人の宅を訪ねた。

在米二十数年、現在羅府に二人の娘、二人の息子を養育する境遇になる迄に、北はシヤトル ポートランドから、南はカムキシユ、アリゾナの瓜摘み等、**？**わる**？？**をして放浪して来たこの主人は、丁度 私共が談話の最中に歸って来た年頃の娘さんに

「ドウダ、フミ、シリフリが上手になったか」と訊ねた。

「エース、パパ。うまくなったよう」と娘さんが、朗るい表情でさう答へて、私共に軽い挨拶をしたので、私は、この親子が親しさと言ふか、軽薄な家庭と言ふか、何かしら朗るい現代的な微笑を感じた。

「ぢや、一つお客さんに踊ってみせい」と主人が娘をうながした。

魁て、娘さんがラジオのチャズで、応接間で、調子良く、シリフリを宙ってみせた。私共はハラハラした。

すると、父が娘さんに、お前のは「ナッチャイナイ」と言って、立ち上がって「型を示す」と吟き乍ら娘さんの前でシリフリを始めた。

暫くして、娘さんは軽く笑ひ乍ら、父と並んで少し踊って。

「どちらが上手」と私共に訊ねたので、知友がお父さんの方が上手だよと笑った。すると父が「俺れのは本物だ」と皆を笑はした。

間もなく、娘さんはお茶等を運んで来たが、私が感心したのは、

斯の親子の愛情と言ふよりも、五十を過ぎた父と二十に足りない娘が、何のこだわりも無く、戯談でも、真面目な話でも、感情の**渠**てなくうちとける態度である。

道徳とか、思想とか、時代の波は親と子の感情に珍に水を差すものだ。頑固な親、解**？？？**と兎もすれば批難される世の親の中で、斯の親の如きは稀である。範とすべき迄は行かなくとも、在米同胞家庭の日本語を話す親と英語を自由に操つる子供達の間には顧みて可なりかと思ふ。

時代、**？？**の振てなく、親が子に嚴肅で、併も良く理解する**？**、家庭箏議の一つの理由が除外されるわけである。感

情のへだてなくは、言葉の差違や年や時代のへだては、親子を融和する上に大した溝ではない。

「子と共に踊る一世の親達の心掛は、そこだ。この気持こそ、親子の感情に一分のすきも與へないのだと私は考へる。

子供は正直である。近隣の子供が遊んでゐたので、自分には子供のないある婦人が、キャンデ等を買ひ與へて、無邪気に戯れてゐたら、或る拍子に子供が言ふに「ミートは一週間に一度しか食べない」と。

婦人は吃驚して、その後、その家庭を調べてみると、主人は一週間十六弗で白人會社の床拭きに働いてゐて、主婦は、或る工場でウオナツ剥きで一日五十仙働いてゐることが判った。

つまり、主人の給料六十五弗、主婦の十五弗、合計八十弗で、親子三人が一ヶ月の生活を營ぐ解だが、驚くべきことは、この人達の生活外の虚榮、社間体のつくろひである。

二十五弗の家賃で、立派なソファ、ラヂオ等、並々ならぬ家具を備へつけて、友人知きを、時折は招待する。

考えてみるがいい。二十五弗の家賃に、水代、ギヤス、電気、電話代を差引いて、衣服も入るだろうに、どんな生活であるか。榮養不良に子供を陥らせぬのは、不幸中の幸である。

景気の良い時に貯める。不景気の杵は縮る。誰れにでも出来さうで、仲々家庭經濟はうまく處理出来兼ねるからこそ、お互いに貧くする。だが何故に安い家賃や立派な家具が必要だ。釣り合つた生活。月給だけの楽しい生活。子供が素直に生活出来る等備を親は務めなければならぬ。

恐らく、今時の經濟恐慌は早急に景気を下らすと考へる人は多量であらう。然って、右左に生活の窮乏、失業の波紋は必然的に擴大するとめて差支えない。

生活を最小限度に切りつめる。と言つても三食を二食にしろでは決してない。

家賃、家具、一切の不必要なもの 切り棄てられるもの總てを清算した生活に、一家幸福の安定を築くことを薦めるものである。

衣食足りて初めて禮節を識る

月給以下の生活をして、一杯以上に溢れる禮節が出来ない筈はない。つまり、清貧に處する。心の潔塵、肉体の健康が、聰明の巾とりある生活に恵みを與へるであらう。

つまらぬ、みかけ倒しの社會面のオモリク等は揚棄すべきである。貧乏は決して恥ぢやない。虚榮は恐ろしい不実である。

兩親共に働きに出て、子供を野放しにする危険をさけ、誰かが近處の人なり、知友なりに頼んで子の將來の品性教育も心掛けるが、親の務めではないか。

子供の品性を野育ちにすると、成長した時に「親は尊敬すべきものだ。だが、俺は親にたいした愛情を感じないのだ。」と我が子に言われる後日を慮るひはないだらうか。

小説の骨

話説の總てがそうであらう。相手を感動させるには 逆説的な効果を覘ふがよい。

美しいものが好き、と主張しては、理論抜きの感情にうったへるには、如何に醜惡なるものに人は嘔吐をもよおすかと言ふのである。

彼は馬鹿だと言ひたいなら、伶俐な男はどんな事を、どんな風に??するに拘らず、彼氏がそれをどんなにしたかを説明するんだ。

美人、薄情の記は、

美人と醜婦に恋される青年が、逆境に堕ちた刹那を、美人と醜婦の愛情が差異を説き、美人が幾人もの男にもて、もてるが故に男の數に走り、不幸の頂上、幸福の淵を歩くものであるかを述べればいい。

挿話をウィットに富む文を書く人物

その人の感情生活は豊富で、福とりと柔かみに充ちてゐるものだ。

理論家は情愛にとぼしいものである。然も、さうした人に限ってエラサに自惚れたがる性格を?っている。そして 人に敬遠されるのである。

世に理論家は情熱家だと言ふ。

情熱なくして 理論の主張は出来ない。

一直線に生きる性格無くしては理論の押しは利かないのだ。が、一直線なだけ、優しみが生活面の全般にみなぎることはない。

要するに

小説は骨を理論にして、それを感情の皮と血と肉で包み柔かにしなければならぬ。

骨が中心にある??を外の肉で隠してみせる。

やはらかみの肉があるものは中に硬い骨がある。——親話の術はそれである。

柔にして剛でなくては。

児童教育の一端

JAN15 1932

「三つ子の魂い百迄」とよく言ふ

それは言ふ迄もなく、児童の心理発展生長の過程を、観念的に批評したに過ぎぬとしてもその間、一理があると信じねばならぬ。

遺傳的なものは別としても、三つ児を支配する感情なり理念は、矢っ張、環境から一步超然する事は不可能だから。

経験によるもの、体験的なもの、**依**って、**??**を**惨**して得たるものが**?**も、児童の心理に深い**?**学と強い刺激を與へ、それに一段を加へた新しい感性を生長させるものがある。

社間はよく言ふ。実物教育、と、私も亦、学校も、單なる知識、教育の巢とせず、實際社會の働かない社會、この事業は妥当でないかも知れぬが、小工場、小家庭としての組織が、近代教育の基本觀念の一つとして存在理由を主張したい。

只、單に、理論的な、空虚な、知識教育だけぢや、三つ子の魂を生育させる人格は、決して求めることは出来ぬ。

私は、人格を言**教**と結び付けたくない。併し、多分に人道的なものが時代の人々に欲しいのだ。それには児童の情操徳行を**希ふや切??**である。

最近、或る知人の宅を訪れた處が、そこの小女が、アフリカ南端の一小女の手紙を受取って、非常にはしゃぎ乍ら、アフリカの話に無中になってゐた。

見も知らぬ南アフリカの英国軍人の小女と、北米加州の日本人の少女が、学校の教師の個人的な友人を通して、交際を始めた。

何でも無い偶然が、一つの美しい情操を、知識を授ける。

その小女達は、お互に遠くにゐて、寫眞を交換しただけで、新鮮な想像力を或る程度迄相手の小女の粉飾の無い手紙の上に建設する。そして、**??**的に、親しみと、興味を、**??**付けられる。

かうした小女の最大級の興味と、純情と、知識慾に出発した心情は、「三つ児の魂百迄の」基礎を創るものではないか。私はさう思ふ。

お**?**我々が享けて来た小年の日の教育制度なり、時代の**?**気なりを体験して来て、始めて今日の児童教育を云々出来るのだが、私は児童の眞の教育は、教科書に非らずして、新聞の漫画であり、教育映画であり、国際間の小年**??**の情操、知識、友情の交換であり、更に実社會を覗く、心童の誘導的な心理状態の喚起である。社會生活の人道的な無批判立場からの觀察、示教であると信じてゐる。

現在の学校教育に付いての様々な提論、議論、一步進んで大学教育の轉落と称せられる或る人士からの攻撃も、亦重なるかなと思惟されるのである。

封建制下の村塾、私校から偉人、傑物の輩出する理由も、その時代の兒織は兎に角として、驗ぶれば驗ぶる程、人格的に情操の養生が問題になる。

妄想らしき心の獨立

都會へ—都會へ、田舎の青年子女は、算実??な、そして、平凡な農園生活を棄てて華かな都會生活に憧れる。

果して、都會は、農村に比して、若き次の時代の人々を幸福に導くことが出来るか、どうか。

誰でも、働いたり、商賣を始めれば、可なりな金がもうかる。さう言った、商客業時代や??資本時代は既に過ぎ去った。現代は、金融資本時代である。

田舎出も、都會育ちも、教育も知識も、?が薄い。社會組織は、人間を數でこなし、生産品を量で計算する。そして、今は人間の數と、生産品の量が吐き場を求め得ず、腐蝕され始めた。所謂、生産過剰と、失業時代の顕出である。

併し、多くの人、一昔前の社會制度が認めた大学教育の沼落を識るであろう。

一家の生活を緊縮さしても大学へ、でも、大学が幸福の保証もせねば、職業の優先權を大学に通はなかった人以上に變へない。と解り始めた現代に、しからば実力が物を言ふか、と言ふと必ずしもさうではない。??ただしい人が、適材適所に能力を発揮出来ないで生活苦に呻吟を薦めてゐる。

最近、高等学校を卒業したる女で、大学に行かぬ者の殆んど、大部分は會社、事務所、?等に勤務を?ひ、決して、肉体的な勞働を求めない。それどころか、肉体勞働は、無知盲昧な者の乗場位に心得てゐる。

結婚の一條?は、生活の保証ではない。彼が白いカラをかけた男であるか、或いは彼女が化粧優れた都會育ちの女であるかださうな。

私は、これを時代人の墮落と稱しやう。同時に、新時代の為、青年の肉体に、勞働のスポーツを讚美する生活の道を薦めたい。

さう言ふ時代が必ず来ねばならぬと思ふ。農村の都會化と言ふよりも、農村が機械文明に浴して、勞働が機械力で占められ、大都會の存在を許さない、新時代が来ると信じる。生産面と消費面の地方分散化が、高度の科学発達と緒に發展して、總ての点に都會、或いは田舎との區別が判然しない社會組織が生まれなくては嘘である。

都會、資本、人口の集中が、現代の經濟制度を自身の矛盾で破壊するであらう。その後に来るものは、??的な總ての一般化、無有相通じる均整された社會であらねばならぬ。

金權が、道德、教育、政治、經濟を支配することが、人間心の獨立を叫ばなくてはならぬ。

感情一、青春一、人間本能の獨立。

これこそ、眞に時代の人達が勇敢に確得すべきなのだ。

秘密の常習

FEB 8 1932

世には秘密の常習者がいくらでもゐる。秘密は直ぐにバレる嘘よりも性悪。

秘密を持つな。太陽の前には總てのものが明るみに出されると？が？？。正しい行爲、朗らかな生活、淨い感情の移動に秘密があつてはならぬ。だが、扉に鍵があるのは、秘密を保つ爲めではなく、權制を保護する朗るい社會生活の遂行の故である。

言はぬが華、とは秘密が、屢々、人を幸福に、又、急轉する過ちから救ふことがあるので、善意に秘密を行使する時の場合に通じる。

秘密が人を？？入れ、悲哀に閉ぢ籠めるやうな事件を惹起する場合、我々は秘密の罪惡を排撃する。

秘密は、總わる場所に、總わる人々の心に喰い込んで悲喜劇を上演する。

最近、或る男が、支那人藥店から、媚藥を買つて來た。このヒヤクは禁劑であつて、男女の性行爲の享樂時に限つて使用されるもので、これを使用すれば、女性が快樂の極致に達する衝激が猛烈だと言ふ。

この禁劑を秘密に使用するか。相手に予め識らして用ひるかの問題で、二人の男が激論を交へた。

藥品を用ひるのは病状に対する対照的な療法としてない兎に角も、藥品の使用は、神の自然に反する。併も相手に秘密に伏するのは欺瞞行爲である一と一人の男が主張したのに。

他の男は、あく迄秘密に実行すると切實した。

その男は、その藥品持つて 日本に 歸朝したんだが。

私は、斯うしたキワドイ秘密な快樂遂心は、單に道德的な罪惡ではなく、生理的にも一個の感性ある女を、阿片の中毒患者の如く不幸に墮とすに等しいと思ふ。更に、それに依つて、自己を瞞着する者ではないかと。

或る場合、つまり、秘密が、輕の秘密を打ち明けるよりも、白人以外の人々を幸福に導く、と。

常識で信じられるなら、秘密を持ち續るのもよいだろうが秘密故に他日に禍ひを招く疑ひがあるなら、棄つべきである。

正・合 反の法則

FEB 16 1932

突飛なこと、冒険、獨創的なこと、人をアッと言はしめる??藝当をして、野心、危険のタイプを歩き、世人の眼を?だたしめやう。所謂、人を釣り出すやうな出来事を、心してゐる人に充ちてゐるのが現代人の世相であろう。

社會生活に忠実である我々は、さう突飛、冒険的な事を?し得ぬと同時に中々に遭遇もしない。

才一、世の中の生縁には、不文律がある法律、道德、が社會人としての飛躍と冒険を一般の為に警戒の眼で成つてゐる。

家庭生活には、家庭を護る不文律がある。

文学にしろ、哲学、政治にしろ不文律の支配がある。

解りよい話が、遊戯についても言へる。

将碁、碁、花札、麻雀、総ての技藝が、法則的な理論、一定の道の上を歩くやうに決定してゐる。そこに面目躍如たる興味が生れる。

理論が先か実践が先か。

卵から鶏は生まれるもの。卵から鶏は生まれるもの。相則して相離れ得ざる一定の法則の許に生活を??する。

将碁にしてが、金、銀、飛車、それぞれ己れの軌道と法則を把つてゐる。そこに面白みがある。その軌道から脱線した時、無茶であり、突飛であり、デタラメで、野暮で??を?いで了ふ。

獨創、それは???。デタラメに陥りやすい。絶対的には存在しないからだ。

獨創が、不文律をあみ出し、法則を発見すて、必然を認識して生まれるなら、そこに生成の餘地がある。

天才と狂人は紙背一枚だ。

時代の家庭生活から一步出た生活は、狂人ともなり、天才ともなる。

物事に、理屈をつける馬鹿と言ふ。が理論法則がないと、物事に発展はない。上昇するものは不文律を持ってゐる。

因?とか、道德とか、古風な感情とか言ふものは、時代の中に発足して、最上のものだと??されたもの、不文律の支配の許に百パーセント美しい感じを與へたものである。所謂定石である。

併し、新時代が、それを棄て去る。無茶に棄てさるんぢゃない。出鱈目ではない。

定石の親発見である。必然的なそれは発展としてである。

魂でも、感情でも、生活でも、肉体でも、人間はしばられたくない。自由を希望する。

宗教に、社会組織に、家庭制度に、一切の古き時代の繋がり、の訓へに。併し実際にその ?? を脱した時、それは自由、飛躍性の発展段階に一步進んだものではない。

出鱈目、我 ? に堕したのである。軌道を持たぬ。将某の駒である。無茶苦茶である。そこに面白みがあらう筈がない。

ルールのないフットボール、野球である。新天地に飛び出したと自惚れる人も、才三者も無然たるものがあっただけである。つまり、根本的な革命は不可能だ。暫定的にしろ、一步改め、二歩進む。

ありふれた他々たる才の歩みが、やがて、時代と緒に獨創の境に達する日の確実性があるわけだ。

マルクス主義者は、唯物史観は、訓へて、辯証法的発展の姿に於て 現実を把握せよ。とそれを主張する。

つまり、正・合・反の法則をたどるのを正しきと認めねばならぬ。

決して、それは革命的物事の変革でなく、改革的発展である。

國際化する上海事件

JUN 27 1932

上海の、抗日、及び暴動の鎮壓と在上海同胞の安寧を名目として、日本政府は、多数の艦船を上海に送り、二千四百の陸戦隊を上陸せしめて、萬一に備へると同時に、抗議を上海市長に送り、上海の対日的悪感情の？発暴動に備へてゐる。併して、日支軍の市街衝突は今は時の問題だとみなされ、諸外國は、その租界を警備すべく、それぞれ陸戦隊を上陸せしめ、日支衝突後に実現するだらうと言われる支和激殘兵の乱入、遁走をふせぐべく？條國を張りめぐらしてゐると傳へられてゐる。

上海は、滿蒙と異なり、日本の權益は、何等？々の地位を把握してはゐない。のみならず、滿蒙に於ける我が巨額の權益を保護する特？條約の締結は無く、もし、日本が軍事的に上海を占據するが如き行動に出るなら、その理由の何如に拘はず、その事項は、戦争行為による他國領侵害のそれらをまぬがれない。英、米、佛の所謂、大戰後の三大？國は九ヶ國條約及びワシントン軍縮會議の議條により当然なるそちとして、我が政府に抗議するであらうことは、自明の理である。

上海を占據したら、一体、我が諸外國への國際関与はどうなるだらう。

それは誰れしも憂慮する問題であり、今後の我が帝國の存在に一石を投ずる実大なる事件として、考察すべきである。

上海は完全に支那の領土だ。

それを日本は、暴動、排日、同胞保護の各國の許に兵を送るのだ。言はば強權の壓迫だ。併し、これが現在の資本主義社會制度の最大の理論の？付であり經濟組織が生む実践である。強權に依る弱小國への？々行動であるが、一斯うした階級的民族的な考察は当分差し据へるとしても、

日本が、上海占據と実行することは、？かに戦争行為として、自他共に許すべきである。

要するに、問題は、その後に来るべき國際動盟の対度、米、英、佛、その他の対日？々、抗議或は、外交戦、？いては、經濟的壓迫を惹起せぬとも限らぬ将来への？々の悲哀である。とにも角にも、将来の世界大戰は起り得るものなら、支那を中心に、東洋を問題として起るだらうことは、經濟学者、政治家、歴史家、總ゆる聰明なる人士が懸念するだけに、我が日本政府も緊揮一番、大事を執って？々々は、千歳に悔を残す？基となるやも計られぬと、信ずるものである。同時に、萬全を期す國民一致の行為こそ、待望する次才である。

(喰はず嫌ひ)

臆病とか、神経質とか、言ふんだが、世には物好き奇人が多い。

「たで喰う虫」とか、「喰はず嫌ひ」とか言つて。

君子危きに近寄りぢーは、臆病の美名だらう。この美名が、どれ程、人の幸福を遁がして了ったか知れぬ、悪く言へば人類の不幸の源を閉したとも言へる。

手近かな例だが、先日私共が、茸を獲つて来て、美味しい、美味しいと讃美して喰べた茸を、一緒に食卓を圍んでゐても、チットも手を付けぬ人がゐた。喰はず嫌ひではなく、その人は、毒がありはせぬか、それが怖いのだろう。皆なの人が喰べてゐてもそれだ。何かの先入觀念が深く浸み込んでゐるのであらう。又そんな人が喰ふと、本当に病気などすることがある。

子供が慾しい、慾しい、と念じてゐると、實際は妊娠しないのに、お腹が大きくなるのがある。所謂、仮想妊娠だが、そして、矢ッ張、妾は妊娠などしはしない。と諦めると、いつの間にか妊娠が消えてなくなる。良く世に言はれていることである。

仮想妊娠等になると、怖ろしい？神？性を帯びて来る。

？？？が嫌で、？が嫌でと言ふ類ではなら、実事、月経が止まりおなかがふくれる、と言ふから変だ。呪にないとかお祓ひとか、易とか言ふのも、人間の弱点を？硯つた？？者の人間の考へであらう。

溺るるものは藁をも掴む、弱い時の神頼り一であらう。

更に一步進んで、妊娠と胎教の關係等がそれだ。

或る妊娠した婦人が、流産で、稀に見る好男子の軀軀隆々たる青年に、うっとり魅せられてゐると、その好男子の太腿に大きなアザが半分顔を出してゐるのを觀て、感慨を深くして歸つた。それから、そのアザが無かつたならと歎息をする程印象がブラッ顔に残つてゐた。ところが生まれた子供は、太腿に大きなアザがあつた一等言ふ傳話がつくり話みたいな馬鹿な物語りを聴くが どうも、さう言ふことを信じる人は、どちらかと言ふと、臆病で、神経質だ。科学と迷信の差は、紙一重で、天才と狂人の差みたいなものである。

信仰と迷信も境が見当付かぬ程親類？な。だから、野蛮人臭い人間、迷信的な人程、近代的な教養のある、洗練された人が多い。無慾は、近代宗教の一つの本領的な？？だが、野蛮な人、迷信家ほど、慾に流された人は尠ないのである。彼等に執つて慾心は、迷信を教す邪心であり、野蛮人の單純な、一本調子な感情を傷ける悪魔の囁に値するものである。

「たで喰ふ虫」とか喰はず嫌ひは要するに、病的な、迷信的な感情一天張りで、本当であらうとなからうと関はぬ。嬰子を、他人の母に、母子の情で育てさせると、生長したその子は、育てて呉れた母を、他人が教へ込まねば、信実の母だと思ひ込むのと同じだと言ひたい。

心の持ちやう、感じの動き具あひ。それが、時代の空気に飛躍もすれば、保守的にもなる動因で、何も運が轉んで来た。狡猾のと、成巧したり、人の頭に立った人を、よく日本人はケナス風習があるが、あれ等は、余りに神係的な、臆病人の、**?**な考へではないか**?**う。成巧、幸福な他人を羨む、それは一歩踏み出して、意志と力の**??**る人への教訓として、価値ある発奮、飛躍の一要素であって欲しいのである。

恋愛と宿命論

JUN 25 1932

嬰子を抱いて、慈愛を灑ぎ得ぬ女性は、母たる資格がない。

男の腕を肩に架けられて、話す時、情愛を感じ得ない女は、恋愛の対照たる資格がない。

握手しながら、相手の手の掌の暖熱と共に信義を意識し得ない女は、友たるの資格が徐されてゐるものだ。

かう言ふ理論は、三段論方に似て、理論と言ふには余り非科学的な誦かも知れぬ。併し誦は、屢々理論を超越した眞理を掴んでゐるものだ。

最近、僕は、僕の知人の一人が、他の一人と、或る友人の金銭上のことから、実に僅かなことから仲異ひした。僕は、このドチラにも友情を、或る親密を持つてゐるので、幾どとなく、二人の友情の包後の受握手迄さしたが、結局、破れた友情は、ほころびたボロに似て、以前に還ることは????い。で、僕は決心した。この二人を、もし僕が結婚式をすることがあったら、その時に交情を温めさせやうと、ところが最近、さうした考へが、恐ろしく馬鹿げてゐることであつたことが判った。

先日、或ることから、話しが、僕の友人に及ぶと、他が口を大にして、僕に迫るに『もし、君が彼と友情關係を得うなら、僕と先づ絶交しやう。君はどちらかにトリックを使ってゐるんだ一』と悪口された。

僕は、誰とでも、無闇に喧嘩に誘等をしたくはないのだが、どちらにも友情をもつことが、トリックかどうか、考へることは?せざるを得ない。のみならず。

彼と交るなら絶交する一と言ふ人こそ、僕に対して、敬愛も友情も把たぬ人だ。つまり彼氏に執つての僕は、いつでも絶交して差支えない友なのだ。

猿と犬が喧嘩するので、猫は、犬にも猿にも交つててはいけないという理論だ。

姉と妹と喧嘩する時、弟は、中立であつてはならぬ。中さいをしてはならぬ。絶体に一方の味方になれと言ふんだが、僕は返事のしやうがなかった。そんなことでは世の中は気持ちよく渡たれるものではない。

或る女を、僕は熱烈に恋し續けた。ところが、その恋してゐる最中の一、二年間に、幾度となく、その女と一緒に撮った筈の写真が一枚も無い。僕の写真帳に張つてゐる筈のが、完全にない。それだけではなく、熱烈に愛してゐるに拘らず、僕はその娘の顔の印象が明瞭に印象することが出来ない。眉があんな型で眼が、鼻が、口元が顔がと遭つて話す時、注意深く瞳めてゐても、歸つて来ると、直ぐに明瞭な記憶の顔かたちが、オボロになる。そのくせ、?度紹介された人とか、友人とか、知人の細君とかは、直ぐに顔かたちが胸に描き出して鮮かだ。

昔、ある人が相手の娘の顔かたちの印象をどうしても、憶ひ出せないのは、相手の女が、少しも当人を愛してゐない心理的作用だ。いわゆる異心傳心だ。と言ふ。それから、幾十枚撮ったか知れぬ写真が一枚もない等と言ふのは、宿命であつて、線のない??は救ひ難しいに同じ理屈で、女と君との恋愛交際が断絶する神の証拠だ。と言ふ友人がゐるが、如何にも神秘的な暗示のやうである。

斯う言ふ状態から、人は屢々悲極に達する人ではないかと思はれる。所謂、かつぎやが得にさふ言ふことに神秘的な超現實的な歸納を信づることに依つて、自己の運命を決する一と言つた具合に。

そして、それが易のやうに当る時、そこに、宿命論が発生して、信仰と迷信の境地が攪乱される

新生に邁進する者にとって、

恋愛に、青春と情熱を注ぐ??たる青年時代は熟して、かう言ふ。非科学的な感情の湧発こそ怖ろしいものはない。と言って、唯物思想のみを、僕は讃歎するものでは必ちもない。

勲章のいろいろ

上海で、三人の日本軍兵士が爆弾を抱いて敵の鉄條網破壊の為に、爆死した。

名誉の三兵士一として、國を挙げて、その忠勇壮烈な戦死を記念し、推称すべく、映画に芝居に、人々が昂奮してゐる。

大和魂の範である。????

腰を射たれたり。腕を貫かれたりしても、金で勲章を載かない兵士もゐる。

死して護国の鬼となる。大和魂とは一体どんなもの。

或る佛軍兵士が將に死なんとする獨逸軍兵士に、鋭剣を突き付けて貫き殺さうとした時 息たへだへのその兵士は剣の許から

「お母さん、お母さん」と叫んだ。

その声に、佛兵は振りかざした銃を下ろして獨逸兵を抱き起こして、死迫る敵兵の唇から洩れる一語一語を聴いて、よし、お前の母に寫眞と、お前の最後の有様を、戦がすんだら知らしてあげやう。と契へて死に水を取ってやったさうだ。それが人情。と言ふよりは人の本能ではないか知る。

能「今は、アツ盛をたすけた。

窮鳥ふところに入れば獵師もうたずー のことわざもある。。

大和魂は、單なる人情、本能ではない。國家が教へた死の令命である。

生はてつ毛より軽く。の教へである。

勲章や年金が兵士の、そして生き残った勇士の最大の慰め、名誉である。無形の名誉も勿論あるが。

國では兵士、社會では人格者、家庭では妻がさうである。

窮鳥(きゅうちょう)懷(ふところ)に入(い)れば獵師(りょうし)も殺(ころ)さず
家庭が平和であれば論はない。

追いつめられて逃げ場を失った者が救いを求めてくれば、見殺しにはできないということ
家庭に内乱が興れば、妻はいつも、大敵と戦わねばならぬ。が妻にとつての慰め、名誉は、時代と共に変わって來た。

今日の妻は、家庭の戦いに勝っても破れても勲章がもらへる。離婚といふ。うまくゆけばこの有功章には年金が?く。

勇敢でない兵士に似た妻もある。

日常に家庭喧嘩に破れてゐて。勲章も年金ももらへず。罰を喰つて????に迄入った兵士みたいに不平不満を萬遍唱へてゐる細君がそれである。

仲には、ブレーキの外れた自動車みたいに。衝撞にあばれ廻って、飛んでもないところで衝突したり、轉覆する妻がある。色男と遁げたり。不義理をする細君がそれである。

要するに、勲章はもらひたい者は誰でももらへるものだ。心掛け一つで平和な時でも乱れてゐても。が勲章は、時と場合で、下げてゐてみれば?のしないことがある。人と時と場所の心得が必要な訳だ。

命は鴻毛より軽し
→
生はこの毛より軽く

ハムレット「ソチに娘があるか。」

ポロニヤス「はい一人娘が」

ハムレット「アマリ外に出すなよ。

知識にふくらむのはよいが。

お腹がふくると困るぞ。気を付けたがよい。」

多端な人生には 様々な悩み、悲しみが湧き起こる。悩み、悲しみ、逆境を突き破るには偲いやる努力が惜しみなく？される。幸福はそれ自身に生れてはこない。棚にはボタモチがあっても細心の注意と、懸命な努力。その結果が誰れも一様に求める人生の慎みでなくてはならぬ。

何か在米日本人の幸福で、

何か在米同胞の一般的な悩みか。

私はここではハムレットの言葉に懲して、才二世子女の？？に解れてみる。

二十世紀機械文明には、人生と人生の烈しい戦いの磨さつはあっても、悩み、嫌疑は清算されてゐる。若い人々は、日中を歩いて知識にふくらむと同時に、お腹は決してふくれぬ。

—それ程、科学、医学学、生理学の進歩は顕著である。

ソビエトロシヤの共産イデオロギー的に婦人問題を解釋すれば、女に純情は求められぬ。又嫉妬もない。抒情的な人生の放棄。生活の單純化。が科学の洗禮に依り、一層烈しく、次の時代の人達を、感情生活を尖敏な唯物主義に別せしめるだろう。

在米同胞子女、所謂才二世娘さん達と、その兩親達の、感情生活の準備を取り得く時代の波は、永久にない。親は々、子は子、別物的な時代環境が、才二世娘達の感情を。夫は夫、妻は妻、恋人は恋人、と分명한境界線を設けて、？もその境を自由に？？？へ得る生活層を築きつつある。ハムレットの悩みは、現代の若い人々には？はれるだろう。同時に子女を想う親達、日本生まれの人々の考へ方は才二子女の感情から遥かに遠く離れた考へ方で、？？結局、時代に？はれるものである。では、新しい次の時代は、子女に執って幸福かと、我々が、乱慕で無茶、と眉をひそめる生活が、朗るい、楽しい生活として、幾十年かの後には 家庭の形式を変えてでも歓迎されるかも知れぬ。

子女の教育と時代の波。動かせぬ矛盾が教育の美名のもとに、文化の進展を退化させつつあるやうに思ふ。

妾はお金持ちと結婚して、若い恋人を持って、多さんの友達を別荘で遊び暮したい。と言ふ娘さんに、先日遭った私は、あいたいが塞がらなかった。が一方、新時代の、自動車や、ラヂオや、発声映画と共に育ちつつある子女の生活感情は、そうかなあと肯ながかざるを得なかった。どこ迄の実行が可能かさう言ふ社會が果たして来るか。

次の時代の人々は、今の時代の人々に比し、知識におくられと同時に、うっかりお腹がふくれる心配もない？である。それが正しい希まれる社會であらうとなからうと。

鷹の論

MAR 8 1932

ボッカチオの或る短編小説に、一人の騎士が美女に言ひ寄る。その恋容れられず、騎士は一切の財産を費ひ果し、今は一羽の鷹を持つのみ。或る日かの美女、子供を供ひてうらぶれたる騎士の館を訪ねる。もてなすべき何物もない。騎士は終ひにかの愛鷹を料理して、彼女を饗した。食了りて、美女乞ふて、小年が彼の鷹を**買**ひたきを述ぶ。既に料理せるを聞き、騎士の心**？**しに深く感動した。そして永年の思ひとの一夜に晴らすことが出来た。と言ふ話がある。運気が一轉するにはかかる鷹が必ず必要だ。

これは人生にも生活にも、社會關係にも國時問題にも当て嵌め得る。

誰れでも、必ずや、突きつめた決心があらう。そして失敗も。が、失敗に**虚**する鷹を蓄へてゐるだろうか。最後の切り牌を持ってゐるだろうか。丁度よい頃合に切り牌を使ふことは**？**ヶ敷しい。又その切牌の効果も予測出来ない。

世は不景気だ。不景気に**？**する最後の牌をうまく使ひ得**？**は成功だ。

上海事件、満蒙事件は、今後の日本対列國間の外交かけひきに、波乱重畳なものがあろう。その時日本は最後の切牌を持ってゐるか。どんな鷹を、そして効果は。

考へると、日本の持つ鷹が、如何なるものであるか我々の予側外にあるだけ、期待も大きい、また不安も多い。

支那は、鷹を迷茶苦茶に使ひ放した。もう最後のものを持たない。

集盟は、米國は、鷹を持ってゐる。「ボイコット」もその的の一区。それに対する日本は、聯盟だつ退と言ふ一区の鷹もゐる。その他にもゐやう。

最後の鷹と鷹が勝負を**？**ふ迄に、日本の國際關係は切迫し、幾多の危慮を生ましめる迄に上海事件は**？？**を揚げると見るべきは、決して考へ過ぎではない。

日本は未だ上海に兵を送つてゐる。

我々は、日本が國家を屠した冒険の前で、最後の鷹を十二分に値することを望むや切なりである。

教訓とは？

MAR 25, 1932

小年の頃、私は、犬が後の片脚を揚げて小便を催してゐるのを観て、不思議を感じた。

その理由を、叔母に訊ねると、

「昔、犬の足は三本しか無かった。ところがある日、コウ法大師が、三本足の犬の姿が余り可哀想なので、足を一本お造りになって、犬に下さった。それで、犬は大変有難たがって、もらった足を大切にします。」と、叔母は教えて呉れた。

漠然ではあるが、幼な心にも私は、コウ法大師の有難さ、奥さを識り。世には偉い人がゐるものだ。おそれ多いこともあるのだと感じた。

青春を誇る頃になって、私は一つの発見をした。

後の片脚を揚げないで小便する犬のある事を暫く観たのだ。

が、間もなく、それは牝の犬であることを識った。同時に、叔母の言葉が、ウソであるのも解った。

と言って、私は、認識不足が、英雄心や、憧がれや、信仰を生むとは主張しない。亦、教訓は、ウソであつては悪い、とも結論したくない。

叔母は幼ない私の心に、不幸なものへの哀れみ、偉大なるものの存在を植えつけた。

現在、それが余りに莫迦莫迦しい教訓であり、嘘であつても、私の心の底には叔母に與へられた言葉の何物かがある。恐らく、それは生徒の私に一つの陰を創るものにひない。

米国に着いた当時の私が、最も愉快に感じ、微苦笑を禁じ得なかったことの一つは、アメリカの犬も、矢っ張、牝に限って、コウ法大師から戴いた後の片脚を揚げて小用を達することだった。

教訓とは何か。教育とは真実を教へねばならぬことか。

總てのものに、理外の理があり、不文律がある。そんなことを、私は叔母の言葉で想つてゐる。

手品師

APR 6 1932

或る時、手品師、奇術師達が會合して、會を組織して、會長の選舉をしたさうだ。

各々その選舉票に候補者名を書いて、順々に帽子を廻して、それに投げ入れさしたさうだ。すると、帽子が最後迄廻って来た時には、投票した用紙は一枚も中に入っていないらしい。

つまり、どんな場合でも手品、奇術を使はずには居られない。結局、手品師は、手品で損をし、手品で滅びる。人間はお互いにそんなものではないか知る。

劍を把るもの亦劍に滅ぶると言ふも**直**である。

法律で人をいちめてゐるものは、矢張、法律の網の目から遁れることは出来ないものだ。

さ細な罪をおかした為に、罪よりもその人を恨まれて、滅ぼされた人がある。

まれに社會的に、道徳的に、或は法律的に、罪以上に責められる。悔後の餘地を與へないで責める。そして、**情**らしい人を完全に滅ぼすのを**???**にし、名譽と心得へ、社會的成名が加はると信じ。それを利用して我を以て益を計る。世にはさうした人が多い。が、私は、さう言ふ**?**類の人々を、日本人として、武士道も、正義も、人情を解せぬ。「窮鳥懷に入ればこれもつけの幸なり」とうそぶる手合で、**??**漢だと言ひたい。

正義の名は、屢々、内心の悪を**?**ふ美名となる。悪質は良質を驅逐する。が最後は、悪を以て制せられるだろう。

あの男は、意地を張る男だ。と批評されるやうな人は、正義や、主義主張は、口実に過ぎなくて、心の底には、根強い慾を孕んでゐる人だ。

なんでもないのに馬鹿丁寧な言葉を使つてみたり、無暗に**大可**な言葉で親しみ**?**をするのは、謙讓とは言へない。

衣装等についてもさうである。特に人眼を?てしめるやうな**??**するのは、虚榮、野心があるからだ。それは無智とも言へる。

同時に、わざと、人前に汚ない醜くい様子で出る人がある。よく**???**と感違いさせられるが、その心は文字通り、鼻持ちならぬ醜悪である。危険はむしろさう言ふ人に多いのだ。なぜなら、手品を使ふことをいつでも心得へてゐる人だから。

煙草の魅力

JUN 24 1932

為事疲れした後で、椰子の根元や、芝生に身体を投げ出して喫ふ一服の莧は実に美味い。ホーツと吐く息に想ふ気持が和やかにほぐれて来る。紫の煙を口の突端に細く吐き出し乍らも、莧なんて言ふ。奇術列もない妙な吸いものを発見したものだと考へる。

食後の退屈な時、気疲、招ねかれた應接間で話しの継続に、せかせかした感情に奔る?? っくり気を落付ける餘裕を把って迫らぬ態度を創る上にも、何となく莧は?? な感、ゆとりの気持を変へる。気分の轉還や、落付きを変へるには、限りなく妙葉だ。

併し、読書して?? な時や、創作に行き詰った心苦しい瞬間の吸煙は、それが紙巻の一本や二本ならいい、三本になり四本になり、一枚書いては一本、二枚書き詰っては三本になると、もう煙草の変へる朗らかさ、気安さ、ゆとり、と言ったものは完全に紛失されて、もやもやと包まれた感情の波の揺ぐだけだ。一本の三分の一も吸わないで捨てては次の一本一と遂ひには、一箱喫っても尚あきたらないで、その癖、莧が美味しいなんて言ふ気持ちはありやせぬ。矢鱈に吸かしては?、漠然たる?? の海に、? ふだけになる。

莧が、眞に莧らしい柔らかな気持を與へるのは、吸ひ始めの、一本か二本だ。

二本喫えば、三本目の誘惑があるがそれを整拂しなくては、本当な莧の味はなくなる。それ以上をたしなむのは、ニコチン中毒の効果に過ぎない。間べき無く莧を吹かすのは、勿論中毒以外に、莧の味などは?? されて切る? がない

煙草喫みは痩せる。食欲が? 造しない。と世間一般が口にするのは、つまり、中毒性に因るんだ。

最近の醫學的實驗は、ニコチン中毒、煙草のみは、男には性欲減退、製精作用の緩慢を來たし、女には妊娠率の下降を來たし、最近の婦人の喫煙流行は、醫學的にも、社会問題としても、大問題になりはせぬかと謂はれてゐる。

さなきだにヒ妊による産児制限の現代に、病的にヒ妊現象が一般化された場合、煙草は、酒以上に偉大なる不幸を人類の?? 生活にもたらすと言いはねばならぬ。

酒には、?? の場合 酔いが度を制限する。併し、煙草は、喫ふ間に、度合頃加減がさう、気持の上に効果を顕はさぬ。従つて、莧の害は、酒以上の中毒性を齎らすと? むべきである。

僕も、煙草は、一服二服は美味に、法悦的な感情、沈静なゆとりを感じるが、それを過ぎると、理由なく吸ひまくった。やんちゃな心境以外に何の味も香りも親しんではゐないと思ふ。それが、いつも、? の祭りの場合が多いのである。

若規内関の崩壊と緒に、金解禁止された日本経済界は、替為の変動、則ち円相場の約三分の一の暴落により、俄然、緊張して、株式界の一般的トウキにともない、物價は約二割高の上昇を見せた。東京の大デパート店の如きは、金解禁発表の夜、高品價の二割を元金に釣上げて、在倉品の豊富を誇る大資本家の構成をほしい儘にしたらしい。当然と言へば、それも財界変動にともなふ状態として当然であらう。が、かうした金融資本金、?に産業資本家の営利を博するに経済界の変動に対して、殆んど、何等の恩恵を得ず、いたづらに生活苦に直面してその??を脱脚出来ないのは、一般労働者、勤勞知識??に属する月給取り諸君である。

世界的不景気の捲風に吹かれて、合理化に依るサラリイマンの月収の減?、労働賃金の割除により、さうでなにも、生活苦に沈澱してみたプロレタリアは、一部資本家の傲慢なる政界操縦にともなふ経済界の急轉に我?関して、更に物價の奔騰に依り、生活の惨憺たる窮状に墮るのはみえ透いてゐる。

或は言ふ。円價の暴落は、我が日本産業界の急則なる上昇的發展を来らすだろうと。そして、必然的にその結果として、生産界の活動、輸出増加、保護関税の設立、等々は、一般民衆をうるほす處大なりと。実にこれは資本家の傲慢的宣言に過ぎないのである。生産界の活動は当然、生産過剰と、?出不能なる世界の不景気な購買力の減退に依る壓迫に直面せずには?かないだろう。

そして結局は、替為の惨落にする紙幣通貨の膨張を來たして、更に物價の上昇と、貧困者の生活の?を脅かすことに根ざして、國民の大多数は為政者に対する。同時に一般資本家に対する反感を高めて、好ましからざる思想的發展は、現在の共産黨、その他の替行運動を刺激して、由々しき結果を招ねきはせぬか、尠なくとも、これだけは断言出来る。

變つて、變り甲斐の無い政策を弄する既成政黨の権力の許に、生活のドン底に??する労働者、農民、サラリイマン等の反撥的な意志の鋭尖化である。

今日の青年知識階級の者にして、現在の産業資本、同時に金融資本社會が、可及的な存在でないことは意識し過ぎる程、顕著な現状ではなからうか。則ち、いくつかは今のやうな、働いてもオイシイもの喰へない社會制度、認識はつぶれるに異ひないと